

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

Funciones discursivas de las construcciones de a pesar de que

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-03-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川口, 正通, Kawaguchi, Masamichi メールアドレス: 所属: |
| URL | https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1836 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



a pesar de que 構文の談話機能について

川口 正 通

1. はじめに

本研究では、現代スペイン語において譲歩をあらわす構文の1つとされる a pesar de que 構文について扱う。具体的には以下のような文である。

(1) A pesar de que me he tomado varias pastillas, no siento ninguna mejoría.

（薬を何錠も飲んだのに、まったく回復した気がしないよ）

（Flamenco García 1999: 3835）

(2) No lo ha hecho a pesar de que habría sido mejor para él.

（彼にとっては有利だったのに、彼はそれをしなかった）

（García Santos 1993: 201）

次節で述べる通り、先行研究においては、この構文は aunque 構文と類似したものとして扱われることが多いが、それ以上の意味規定は十分におこなわれていないように見受けられる。そのため、本研究では a pesar de que 構文の意味特徴に注目しつつ、それが具体的な談話の中でどのような機能を果たするかという点について考察したいと思う。なお、a pesar de + 不定詞または a pesar de + 名詞句の形式、および類似した pese a que という形式については、ひとまず本研究の考察対象から除外する。

2. 問題の所在

2.1. 譲歩構文のカテゴリーと本研究の位置づけ

2.1 では、従来の文法書において設定されている譲歩構文というカテゴリーにおける問題点を指摘したい。

一般的な文法書における譲歩構文に関する記述は、「譲歩構文（Oraciones concesivas, Construcciones concesivas など）」という項目や章が設けられ、その定義が説明された後、具体的な形式として aunque, a pesar de que, si bien といった形式が紹介されるという流れが採られることが多い（RAE et al. 2009, Bosque y Demonte 1999, RAE 1973 など）。しかしながら、そこで紹介された複数の譲歩形式については、その共通性に注目されることが多く、それぞれの譲

歩形式が有する固有の意味機能に関する記述は不足しているように見受けられる¹。また *aunque* と *a pesar de que* については、その意味のみならず、叙法選択についても類似していることを指摘した論考も存在する (Flamenco García 1999:3855)。このような背景から、スペイン語学において譲歩構文というカテゴリーとして扱われているさまざまな言語形式の意味機能を記述する必要性があるものと考えられ、*a pesar de que* 構文について扱う本研究はその試みの1つとして位置付けられる。では、次の2.2では、*a pesar de que* 構文について扱った先行研究を概観する。

2.2. 先行研究

2.2では、具体的に *a pesar de que* 構文について扱われた先行研究を概観する。すでに述べた通り、*a pesar de que* 構文の意味機能について扱った論考は多くはないが、RAE et al. (2009), Bosque y Demonte (1999), Montolío (2001), Matte Bon (1995) に記述が見られる。ここでは特に、*a pesar de que* 構文の意味特徴について述べた Montolío (2001), Matte Bon (1995) を取り上げたい。

まず Montolío (2001) は、*a pesar de que* 構文と *aunque* 構文の意味的差異として、前者 (*a pesar de que* 構文) は後者 (*aunque* 構文) よりも「強い対比 (*un contraste más fuerte*)」を構築すると指摘しており、例えば以下の例においては、*a pesar de que* の代わりに *aunque* を使用すると「対比の力 (*fuerza contrastiva*)」の多くが失われるとしている。

- (3) En nuestras ciudades, cada día es mayor el número de personas que se quejan de la ausencia de humanidad en el médico actual. La gente añora la imagen idealizada del galeno rural de antaño, {a pesar de que / aunque} a menudo éste no podía hacer otra cosa que limitarse a confortar al enfermo con su presencia, mientras la enfermedad seguía irremediabilmente su curso.

1 このような考えは、例えば Bango de la Campa y Donaire (2006: 169) に見られる以下のよう記述からも明らかである。

“ [...] la tradición gramatical y la tradición lingüística tratan, generalmente, la concesión como un procedimiento de orden sintáctico, marcado por el empleo de determinados conectores. La sola presencia de un *conector concesivo* basta para identificar una oración, sin aportar la necesaria reflexión acerca de las propiedades que debe reunir ese conector para poder considerarlo como *concesivo*”

(伝統文法および言語学の伝統では、一般に譲歩を特定の連結辞の使用によって示される統語的操作として扱っている。つまり、ある文を譲歩文と特定するには「譲歩の連結辞」の存在のみで足り、譲歩文と判断するために本来おこなうべき、当該の連結辞が有する特性に関する分析はおこなわれていないのである) (Flor de la Campa y Donaire 2006: 169)

(私達の街では、今の医師には人情が欠けていると不平を漏らす人が日々増えている。人々は、以前田舎町にいた医師のような理想的なイメージを懐かしんでいる。手の施しようのない病状であろうとも、ただその場において患者を励ますことしかできないことが、彼らにはしばしばあったにも関わらずである)

(Montolío 2001: 57)

また、教育目的で著された文法書である Matte Bon (1995) でも、a pesar de que 構文は aunque 構文と類似するとしつつも、譲歩節であらわされる情報と主節であらわされる情報との対比を強調すると指摘されており、以下の例が挙げられている。

(4) ●¿Y qué tal su inglés?

○Pues mire, a pesar de que he seguido varios cursos, todavía tengo dificultades.

(●英語はどんな調子だい？)

○そうだね、いくつも講座を受けたけど、まだ不自由だよ)

(Matte Bon 1995: 213)

本研究は、これら2つの研究において指摘された、a pesar de que 構文が有するという「強い対比」あるいは「対比の強調」という説を否定しようとするものではないが、少なくとも、(i) そのような性質が a pesar de que 構文が持つどのような意味特徴によって生じるのか、および (ii) その意味特徴が談話においてどのような機能を果たしうるかという点についてより詳しく考察したい。

次節3では、まず譲歩構文の意味構造を確認した後、a pesar de que 構文が固有に有する特徴について考察する。

3. 譲歩構文の意味構造と a pesar de que 構文の特徴

3.1. 譲歩構文の意味構造

3.1. では、譲歩構文がどのような意味構造を有する構文であるかを確認する。譲歩構文の定義としてはさまざまな説が存在するが、譲歩構文を仮に Aunque p , no q という形式であらわすならば、ひとまず本研究では譲歩構文を、「従属節であらわされる内容 p から喚起される因果関係 si p , q に反する内容 no q が主節にあらわれたもの」¹と考える。例えば、以下の例を見てみたい。

(5) Aunque resulta demasiado caro, este coche me encanta.

(この車はずいぶん高くつくけど、とても好きだ)

(Montolío 2001: 52)

この文では、「値段が高いならば気に入らないだろう」という因果関係が喚起されるが、それに反した「気に入る」という内容が主節にあらわれている。このような意味構造は *a pesar de que* 構文についてもあてはまるため、従来の文法書等はこの共通点に着目し、譲歩構文という1つのカテゴリーにまとめているものと考えられる。

3.2. *a pesar de que* 構文の特徴

前節 3.1. で見た譲歩構文の意味構造を踏まえた上で、本研究が注目したい点は、従属節から喚起される因果関係における、*p* と *q* の「結びつきの強さ」である。より具体的に言い換えれば、*p* という事態が生じれば *q* の事態がほぼ確実に生じると話者が考えているか、それとも *p* の事態が生じれば通常は *q* の事態が生じるが、状況によっては生じないこともあるという程度のものなのかという差である。本研究の主張の1つは、この「喚起される因果的結びつきの強さ」が *aunque* 構文と *a pesar de que* 構文の使い分けに関与しており、*a pesar de que* 構文においては喚起される因果的結びつきがより強いということである。すなわち、例えば Matte Bon が挙げた上記 (4) (= (6) として再掲) の例であれば、話者が「多くの授業を受ければ、英語が上手に使えるようになるはずだ」という強い因果的結びつきを持っているものと考えられる。

(6) (= (4))

●¿Y qué tal su inglés?

○Pues mire, a pesar de que he seguido varios cursos, todavía tengo dificultades.

(Matte Bon 1995: 213)

また、以上のように考えると、*a pesar de que* 構文では強い因果的結びつきが喚起されるため、その結びつきに反する状況とは話者の予測と比較すると大きく食い違ったものであると予想される。

以上を総合すると、*a pesar de que* 構文では、*aunque* 構文と比べて強い因果的結びつきが喚起され、その関係と食い違う状況が主節で表現されるものと考えられる。

a pesar de que 構文がこのような意味を有することの傍証として、次のよう

な文において a pesar de que 構文が使用できないことが挙げられる。

- (7) El examen será en esta aula, aunque no estoy seguro.
 (8) Ese chico trabaja cerca de aquí, aunque no lo sé exactamente.
 (7') *El examen será en esta aula, a pesar de que no estoy seguro.
 (8') *Ese chico trabaja cerca de aquí, a pesar de que no lo sé exactamente.
 (試験はこの教室でおこなわれるだろう。確かじゃないけど)

(7), (8) は, Flamenco García (1999) で発話行為の譲歩文 (concesivas de enunciación) と呼ばれるものの一種である。これらの文では, 因果的結びつきが従属節と主節の命題内容の間で見られるのではなく, 従属節の内容と主節で話者がおこなう発話行為との間に喚起される。すなわち (7) であれば, 「確かでないならば, 試験がこの教室でおこなわれることを伝達 (または推測) しない」, (8) であれば「詳しく知らないのであれば, その青年がこの近くで働いていると言わない」という結びつきである。そして (7), (8) では話者がそれらの因果的結びつきに反する行為をおこなうことがあらわされている。このような文において a pesar de que 構文が使用された (7'), (8') が非文となるのは, a pesar de que 構文によって喚起される強い因果的結びつきと食い違う発話行為を話者自身がおこなうという状況が不自然であるためではないかと考えられる。

さらに, a pesar de que 構文の特徴としてもう 1 点指摘したいことは, 従属節, つまり a pesar de que 節内の内容に際立ちを与える構文であるということである。強い因果的結びつきが喚起される a pesar de que 構文において, さらに a pesar de que 節であらわされる内容に際立ちが与えられると, 話者の予測によれば主節の事態が生じる可能性が極めて高くなる。それにもかかわらず主節の事態が生じない状況が示されることになるため, 話者の予測とは大きな食い違い (Montolío 2001 の用語では「強い対比」, Matte Bon 1995 の用語では「対比の強調」) が生まれることになる。a pesar de que 節の内容に際立ちが与えられるという考えを支える根拠は以下の 2 点である。第一に, a pesar de que 構文では, 以下のように a pesar de que の部分に強勢を置いて発音することが可能なことである。これは aunque 構文では不自然である。

(9a) (= (1))

A PESAR DE QUE me he tomado varias pastillas, no siento ninguna mejoría.

(9b)

?AUNQUE me he tomado varias pastillas, no siento ninguna mejoría.

第二の根拠は、*a pesar de que* 節中であらわされうる内容は事実または実現可能性の高い事態に限られ、さらに直説法の動詞が使用されることが多い (RAE et al 2009: 1952, Borrego et al 1985: 173) という点である。先行研究によると、*a pesar de que* 節内の動詞は直説法・接続法のいずれをとることも可能であり、原則として両叙法の交代は *aunque* 節内の叙法交代の規則と同様であるとの指摘があるものの (Flamenco García 1999: 3835, Borrego et al 1985: 173)、以下のように動詞が接続法形をとる場合でも仮定的事態および反事実的事態はあらわすことができないという²。

(10) *A pesar de que llueva mañana, iré de compras.

(たとえ明日雨が降っても、買い物に行くだろう)

(11) *A pesar de que yo fuera millonario, no lo compraría.

(たとえ私が大金持ちでも、それは買わないだろう)

このように、*a pesar de que* 節内において仮定的事態や反事実的事態をあらわすことができないのは、際立ちが与えられる *a pesar de que* 節に、起こるかどうかがわからない仮定的事態や、事実とは異なる反事実的事態を置くことが不自然であるためではないかと考えられる。

以上、本節では譲歩構文の意味構造を確認した後、*a pesar de que* 構文が固有に有する特徴について考察し、*a pesar de que* 構文においては *aunque* 構文よりも強い因果的結びつきが従属節の内容から喚起され、それと食い違う内容が主節であらわされること、さらに *a pesar de que* 節の内容に際立ちが与えられる構文であることを指摘した。ここで改めて 2.2 で見た先行研究において述べられていた「強い対比」、「対比の強調」という説を思い起こすと、そのような意味特徴も、強い因果的結びつきと食い違う内容があらわされた結果として生じたものと捉えることが可能であると考えられる。

2 *aunque* 節中の叙法選択において、事実をあらわすにも関わらず接続法が使用されることが知られており (subjuntivo temático)、その用法であれば *a pesar de que* 節においても接続法が使用されると指摘する論考は存在する (Flamenco García 1999: 3835)。しかし他方で、その環境でもやはり直説法が好まれるとする説もある (Borrego et al. 1985, Montolío 2001)。

では次節 4. では、本節で指摘したような意味特徴を有する a pesar de que 構文が実際の談話の中でどのような機能と繋がりをいう点について扱う。

4. a pesar de que 構文の談話機能

本節では、第 3 節で見たような意味特徴を有する a pesar de que 構文が談話の中でどのような機能を持ちうるかという点を考察し、少なくとも以下に挙げる 3 つを持ちうることを指摘する。なお、本節で用いる用例はすべて、スペイン語圏の新聞や雑誌のウェブサイトから収集したものである。

4.1. 驚き・意外性

第一に、a pesar de que 構文の使用によって、ある事態に対する話者の驚きや意外感が表現された例が見られる。強い因果的結びつきと食い違う内容が表現されるわけであるから、比較的容易に予測される談話機能であると言えよう。次の例を見てみよう。

(12) (祭りに関する記事)

Más de 9.000 raciones en la espectacular e inesperada jornada inaugural del viernes y alrededor de 13.000 en la del sábado, a pesar de que la lluvia redujo considerablemente la afluencia de visitantes en horario vespertino, servían para abrir con buen pie esta fiesta "de interés turístico internacional" [...]

(華々しく、予想を超えた初日金曜の 9,000 皿、および土曜の 13,000 皿は、雨の影響で夕方の客足はかなり減少したものの、「国際的観光価値」を持つこの祭りの好調な滑り出しに一役買っていた)

(Faro de Vigo 08-10-2012,

<http://www.farodevigo.es/portada-arousa/2012/10/08/primer-semana-alcanza-35000-raciones-150000-euros/693111.html>)

(13) Sorprendentemente, ni el Consell de Ibiza ni el PP local han presentado alegaciones a la reforma de la Ley de Costas, a pesar de que uno solo de sus artículos sería suficiente para protestar.

(驚いたことに、イビサの議会も地元の国民党も海岸法の改正に対する申し立てを提出しなかった。意義を唱えるのには、ただ 1 項目で十分であったにもかかわらずである)

(Diario de Ibiza 08-10-2012,

<http://www.diariodeibiza.es/opinion/2012/10/09/requiem-ley-costas/581982.html>)

(12) では、「雨で客足が減少すれば，祭りの好調な滑り出しはないはずだ」といった強い因果的結びつきに食い違う事態が生じたことに対する話者の驚きが表現されている．これは a pesar de que 節内にあらわれた *considerablemente* という表現からも読み取れるように思われる．(13) では文頭に *sorprendentemente* があらわれていることから，話者の驚き・意外感が表現されていることは明らかである．

4.2. 非難

a pesar de que 構文が持ちうる機能として次に指摘したいのは，ある事態に対する非難をあらわすものである．非難とは望む状況や予測する状況が生じない際におこなわれる行為であるため，これも a pesar de que 構文の意味特徴から容易に予測される機能である．具体的には以下のような例が見られる．

(14) (アルゼンチンのサッカーに関する記事)

El “Xeneize” cayó de local ante Juventud Alianza (San Juan) por 1 a 0, a pesar de que creó innumerables chances de gol.

(Xeneize が 1-0 で Juventud Alianza に敗れた．ゴールのチャンスを無数に生み出したにもかかわらず)

(El Esquiú 08-10-2012,

<http://www.elesquiui.com/notas/2012/10/8/tirolibre-257137.asp>)

(15) (ベネズエラの大統領選挙において，コロンビアから不在者投票を申し込んでいたが，出来なかった人に関する記事)

Ramón Ramírez, uno de los pocos venezolanos que no pudo plasmar su “x” sobre el tarjetón porque, según él, la información de la embajada no fue clara. “A pesar de que me inscribí para votar en Bogotá ante el Consejo Nacional Electoral de Venezuela, acá dicen que no aparece el registro y lo cierto es que perdí mi oportunidad de votar por el cambio”, concluyó con tristeza.

(ラモン・ラミレス氏は，投票用紙に x を書き込むことができなかった数少ないベネズエラ人の 1 人である．というのも，彼によれば，大使館からの情報が明確でなかったためであるという．「ボゴタで投

票するために CNEV に申し込みをしたにもかかわらず、ここでは記録が見当たらないと言われ、確かなことは、改革のために投票する機会を失ったことだ」と悲しそうに語った)

(El Tiempo 08-10-2012,

http://www.eltiempo.com/colombia/bogota/venezolanos-que-residen-en-bogota-votaron_12288846-4)

(14) では「無数のチャンスを生んだのだから負けるはずがない」という強い因果的結びつきと食い違う状況が表現されており、負けたチームへの非難が読み取れる。(15) も、申し込みをしたにもかかわらず投票できなかった話者の、関係機関に対する非難があることは内容から明らかである。

4.3. 自身の発言の矛盾を示す

a pesar de que 構文が持ちうる機能の 3 つめは、自身の発言が矛盾したものであることを明示することである。これは a pesar de que 構文の意味を 4.1, 4.2 で紹介したものとは逆に捉えたもので、話者自身の発言内容が強い因果的結びつきと食い違ったものであることをあえて示すことによって、主節の内容を聞き手に受け入れられやすくするといった目的があると考えられる。

(16) (アメリカがスペインに違法ダウンロードに関する法律の改正を求めたことについて)

Personalmente, sin ser ni abogado ni político, todo esto me parece una enorme falta de respeto para nuestro sistema judicial y un intento de injerencia en él difícilmente justificable, a pesar de que entiendo que Estados Unidos quiera defender su poderosa industria audiovisual [...]

(私は弁護士でもなければ政治家でもありませんが、個人的にはこれらはすべて我が国の司法制度に対する冒涇であり、正当化が困難な、司法制度への干渉だと思います。アメリカが自身の強大なオーディオビジュアル産業を保護したいのはわかりますが)

(La Voz de Galicia 10-05-2009,

http://www.lavozdeg Galicia.es/barbanza/2009/05/10/0003_7707617.htm)

(17) (甲状腺疾患の人 [太りやすい] に対するコメント)

Y a pesar de que entiendo tu frustración... y lo difícil que parece superar todo esto, quiero que sepas esto...

¡Hay Esperanzas!

Si haces algunos cambios en tu vida, puedes lograr tu meta de perder peso.

(あなたの不満, そしてこれらすべてを克服することがいかに困難に映っているかもわかりますが, しかしこれは知っておいてほしいのです…)

希望はあります!

あなたの生活にいくつか改善を加えれば, 減量という目標を達成することができるのです)

(Adelgaza20 03-07-2012,

<http://adelgaza20.com/541/habitos-saludables/como-perder-peso-aun-cuando-sufres-de-hipotiroidismo/>)

(16) では, *a pesar de que* 構文を使用することで, 「アメリカが産業を保護したいことを理解しているならば, 我が国の司法制度に対する冒涇であるといった発言はしないはずだ」という強い因果的結びつきを喚起させ, それと食い違う主張をあえておこなっている. さらに, *a pesar de que* 構文によって「アメリカが産業を保護したいことは理解している」という点を際立たせることが, アメリカへの配慮となっているように思われる. (17) は相手のフラストレーションや感情を理解しているという点を明示し, さらにそれと矛盾する発言であることをあえて示しておくことによって, 自身の発言を聞き手に受け入れられやすくする意図を持っているものと考えられる.

以上, 本節では, 第3節で見たような意味特徴を有する *a pesar de que* 構文が談話の中でどのような機能を持ちうるかという点を考察し, 少なくとも, 驚き・意外感, 非難, 自身の発言の矛盾を示すという3つの機能を持ちうることを指摘した.

5. おわりに

本研究では, *a pesar de que* 構文の意味特徴, および同構文が談話においてどのような機能を果たしうるかという点について考察した. 本研究で明らかになった点は以下の通りである.

a pesar de que 構文の意味特徴:

- *aunque* 構文と比べて強い因果的結びつきが喚起され, その関係と食い違う状況が主節で表現される.

- 従属節の内容に際立ちが与えられる。

a pesar de que 構文の談話機能：

- 驚き・意外感
- 非難
- 自身の発言の矛盾を示す

本研究では上記の通り、「強い因果的結びつき」を a pesar de que 構文の意味特徴として指摘したが、実際には因果的結びつきは主観的なものであり、客観的な検証が困難である。また、a pasar de que 構文の談話機能についても、本研究で指摘したもの以外にも存在する可能性がある。これらの点については今後の課題としたい。

参考文献

- Bango de la Campa, F. y María Luisa Donaire (2006) “La concesión como estrategia argumentativa”, *Actas del XXXV Simposio Internacional de la Sociedad Española de Lingüística*, editadas por Milka Villayandre Llamazares, León: Universidad de León
- Borrego, J., J. G. Asencio y E. Prieto (1985) *El subjuntivo*, Madrid: Sociedad General Española de Librería.
- Bosque, Ignacio y Violeta Demonte (directores) (1999) *Gramática descriptiva de la lengua española*, vol. 3. Madrid: Espasa-Calpe.
- Flamenco García, Luis (1999) “Las construcciones concesivas y adversativas”, en Bosque y Demonte (1999), cap.59, pp.3805-3878. [要約：福嶋教隆 (2006) 「譲歩構文と逆接構文」『スペイン語記述文法 章別和文要約 3』, pp.145-155 関西スペイン語学研究会].
- García Santos, Juan Felipe (1993) *Sintaxis del español -Nivel de perfeccionamiento*, Madrid: Santillana-Universidad de Salamanca.
- Matte Bon, Francisco (1995) *Gramática comunicativa del español (Nueva edición revisada) Tomo II*. Madrid: Edelsa.
- Montolío, Estrella (1999) “Las construcciones condicionales”, en Bosque y Demonte (1999), cap.57, pp.3643-3738. [要約：和佐敦子 (2006) 「条件構文」『スペイン語記述文法 章別和文要約 3』, pp.114-144 関西スペイン語学研究会].
- Montolío, Estrella (2001) *Conectores de la lengua escrita: Contraargumentativos, consecutivos, aditivos y organizadores de la información*, Barcelona: Ariel.
- Real Academia Española (1973) *Esbozo de una nueva gramática de la lengua es-*

pañola, Madrid: Espasa-Calpe.

Real Academia Española y Asociación de Academias de la Lengua Española (2009)

Nueva gramática de la lengua española, Madrid: Espasa Libros.

岡野ひさの (2007) 「いわゆる逆接のノニは何を表すか」, 『日本語文法』, 7 卷 1 号, pp.69-86, 日本語文法学会.